

2024年3月期 決算説明会資料

2024年5月29日

鉦研工業株式会社
代表取締役社長 木山隆二郎





目次

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2024年3月期決算概要
4. 2025年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
7. 中期経営計画最終2025年度見込

1. 会社概要

2. 事業内容

3. 2024年3月期決算概要

4. 2025年3月期業績予想

5. 持続的PBR1倍以上に向けて

6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗

7. 中期経営計画最終2025年度見込

項目	内容
会社名(英語表記)	鉦研工業株式会社 (KOKEN BORING MACHINE CO.,LTD.)
設立年月日	1947年10月16日
本社所在地	東京都豊島区高田2丁目17番22号
決算	3月
資本金	11億6,541万円
上場市場	東証スタンダード市場
代表取締役社長	木山 隆二郎
社員数	連結 306名(2024年3月末／臨時雇用者を除く)
事業内容	ボーリング機器製造・販売及び関連工事施工等
連結子会社	構造工事株式会社、株式会社クリステンセン・マイカイ

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2024年3月期決算概要
4. 2025年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
7. 中期経営計画最終2025年度見込

1. 各種ボーリング・グラウト機器製造・販売


建設事業計画の立案から建設完成までの様々な段階でボーリング装置やグラウト機器が使用されます。地質調査や地盤改良工事、災害防止工事、トンネルの掘さく現場から、深海から南極まで、鉱研工業の製品は様々な場所と分野で活躍を続けています。

2. エンジニアリング・工事施工

ボーリングマシンのトップメーカーであることを最大限に活かし、独自の機械、独自の工法を駆使し、トンネル掘削の先進調査ボーリング、温泉・地下水掘削、直径6mの立坑レイズボーリングなどを展開しています。



ボーリングマシンの
トップメーカー



地下開発の
エンジニアリング、
施工

KOKENのボーリング機器はロータリーパーカッションドリルを中心に、ボーリング工事に必要な各種機器やグラウト工事のためのバッチャープラントなどを製造販売しています。

- ① 全油圧式ロータリーパーカッションドリル
- ② ボーリング/グラウトポンプ
- ③ 全自動バッチャープラント
- ④ 各種計測機器

全油圧式ロータリーパーカッションドリル
アロードリル
RPD-180C



全油圧式ロータリーパーカッションドリル
アロードリル
RPD-75SL-R2-DFC



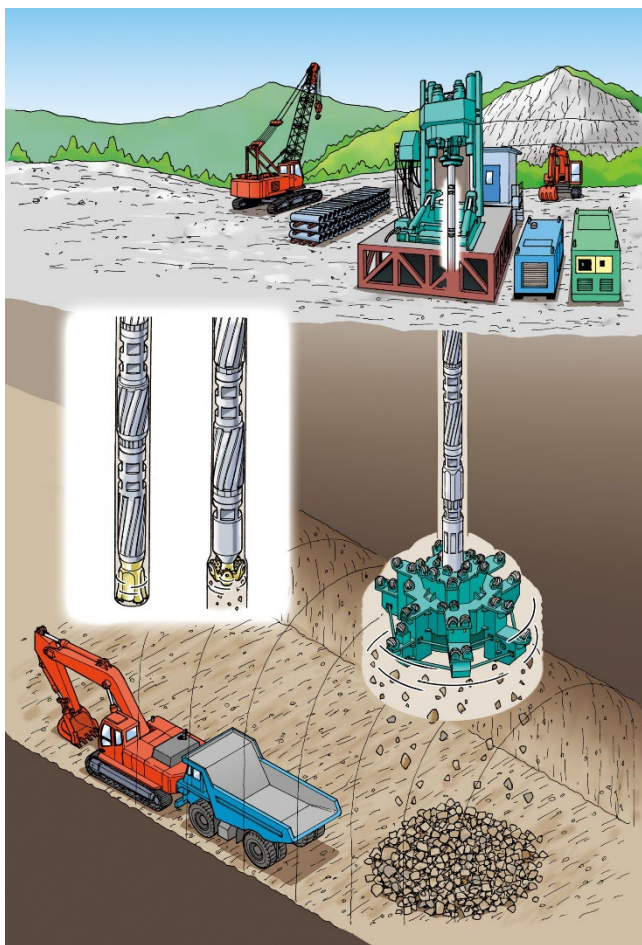
全自動バッチャープラント
KMP(A)VM1800W-39



ボーリング/グラウトポンプ
MG-20AFV

KOKENの施工エンジニアリングは専用機器をつかった独自工法が特徴です。

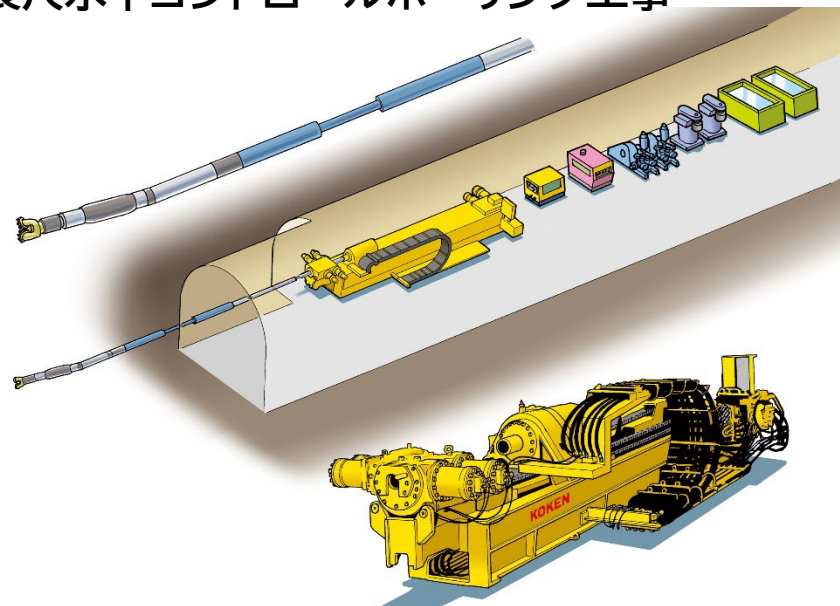
大口径岩盤掘削工事



PSワイヤラインによるトンネル前方調査工事



長尺水平コントロールボーリング工事



このONE & ONLYの技術とノウハウで工事施工業界で独自の地位を築いています。

温泉掘削工事



深層地下水活用事業



構造工事株式会社

技術力と情熱を新世紀へ。土木建築フィールドで展開する多彩な工事内容。

仮設アンカー工事

残置式



除去式



永久アンカー工事



浮き上がり防止アンカー工事

建築構造物の浮き上がり・転倒防止等工法で、建築評定センターの認定を得た確実なアンカー工法です。



特殊アンカー工事

緩い地盤に対して地盤改良を行い、アンカーと一体化し、高耐力を発揮します。敷地境界等の制限がある場合に有効です。



株式会社クリステンセン・マイカイ

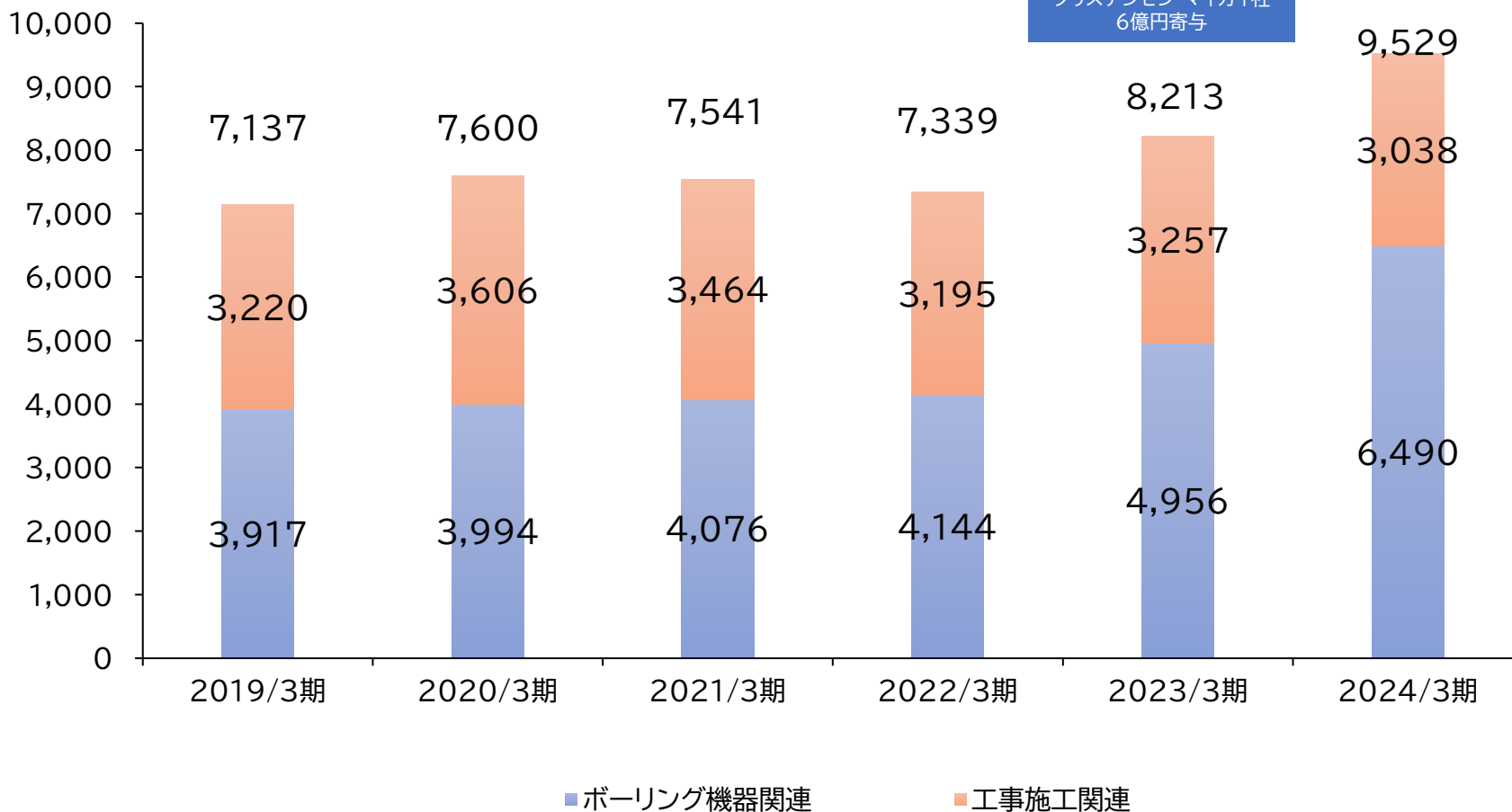
株式会社クリステンセン・マイカイとの「鉋研の得意とする都市土木ボーリング市場とクリステンセン・マイカイ社の得意とする地盤調査ボーリング市場の相乗効果を狙う」目的でより一層のシナジーを発揮します。



1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2024年3月期決算概要
4. 2025年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
7. 中期経営計画最終2025年度見込

- 2024年3月期については売上高は95億円と増収
- クリステンセン・マイカイ社の売上高が1年間分寄与(2023/3期は4か月分寄与)
- 鉦研工業単体売上高は66億円と1億円の減収

売上高(百万円)



クリステンセン・マイカイ社
23億円寄与

クリステンセン・マイカイ社
6億円寄与

- 売上高は1,315百万円増加し、原価率低減もあり営業利益は114.0%増加し559百万円
- 当期純利益※2は299百万円

単位:百万円

	2022/3期	2023/3期	前期比	2024/3期	前期比増減	
売上高	7,339	8,213	873	9,529	1,315	16.0%
売上原価 (原価率)	5,265 (71.7%)	6,036※1 (73.5%)	770 (1.8Pt)	6,639 (69.7%)	603 (▲3.8Pt)	10.0%
売上総利益	2,073	2,177	103	2,889	712	32.7%
販売費管理費	1,752	1,915	163	2,330	414	21.6%
営業利益	321	261	▲60	559	298	114.0%
営業外収益・費用	▲11	▲104	▲93	▲82	22	—
経常利益	310	157	▲153	477	320	204.0%
特別利益・損失	▲4	118	122	▲11	▲129	—
法人税等	10	90	80	165	75	83.4%
非支配株主利益	2	▲1	▲3	—	1	—
当期純利益※2	293	185	▲107	299	113	61.3%
ROE	6.4%	4.0%	—	6.2%	—	2.2Pt

※1 伊勢原工場 新規償却費 約130百万円含む

※2 当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

決算概要－受注状況(受注高・受注残高)

■ 受注高:2024年3月期実績 9,803百万円(前期比1,346百万円増加)

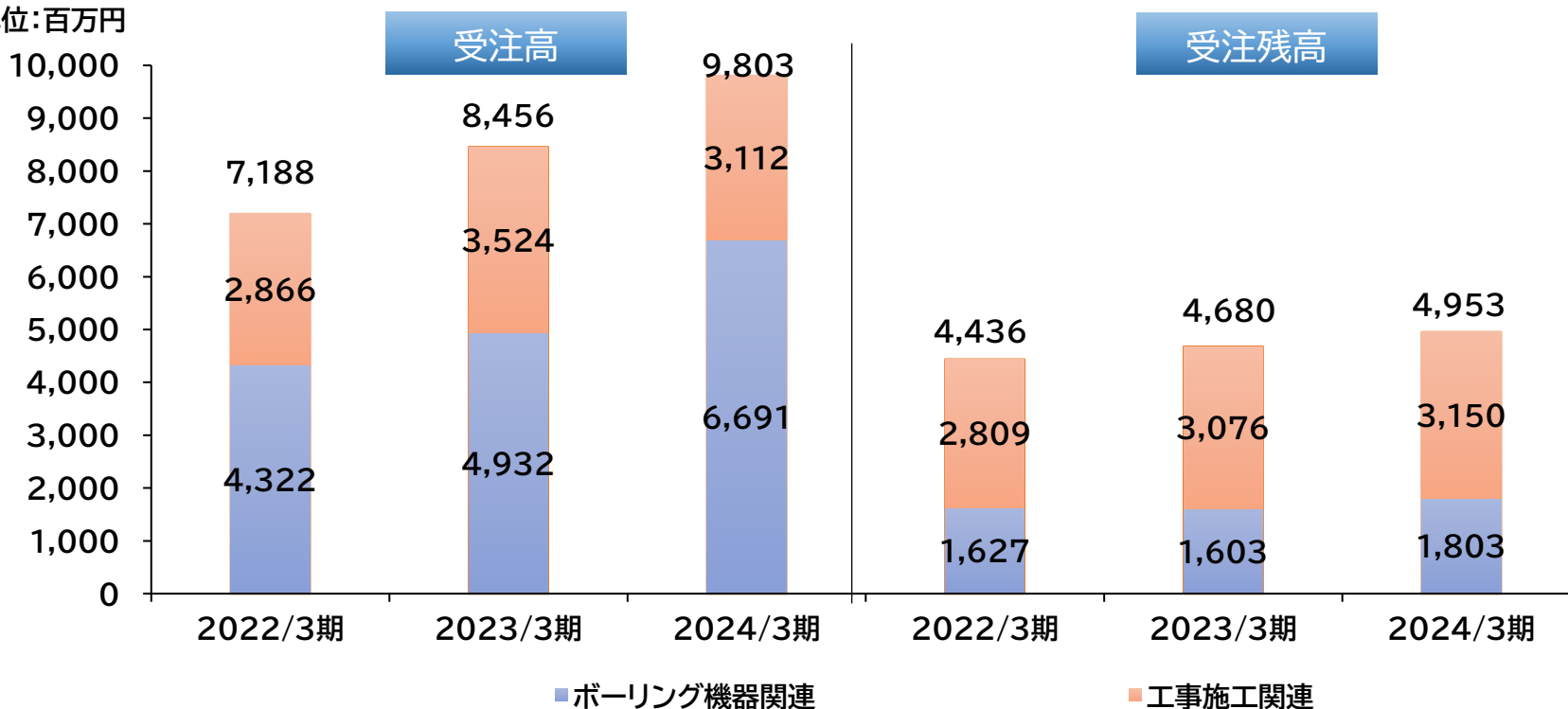
- ボーリング機器関連:6,691百万円(1,758百万円増加)クリステンセン・マイカイ社:2,510百万円※あり
- 工事施工関連: 3,112百万円(412百万円減少)

■ 受注残高:2024年3月期実績 4,953百万円(前期比273百万円増加)クリステンセン・マイカイ社:322百万円※あり

・受注高と受注残高の主な増減要因

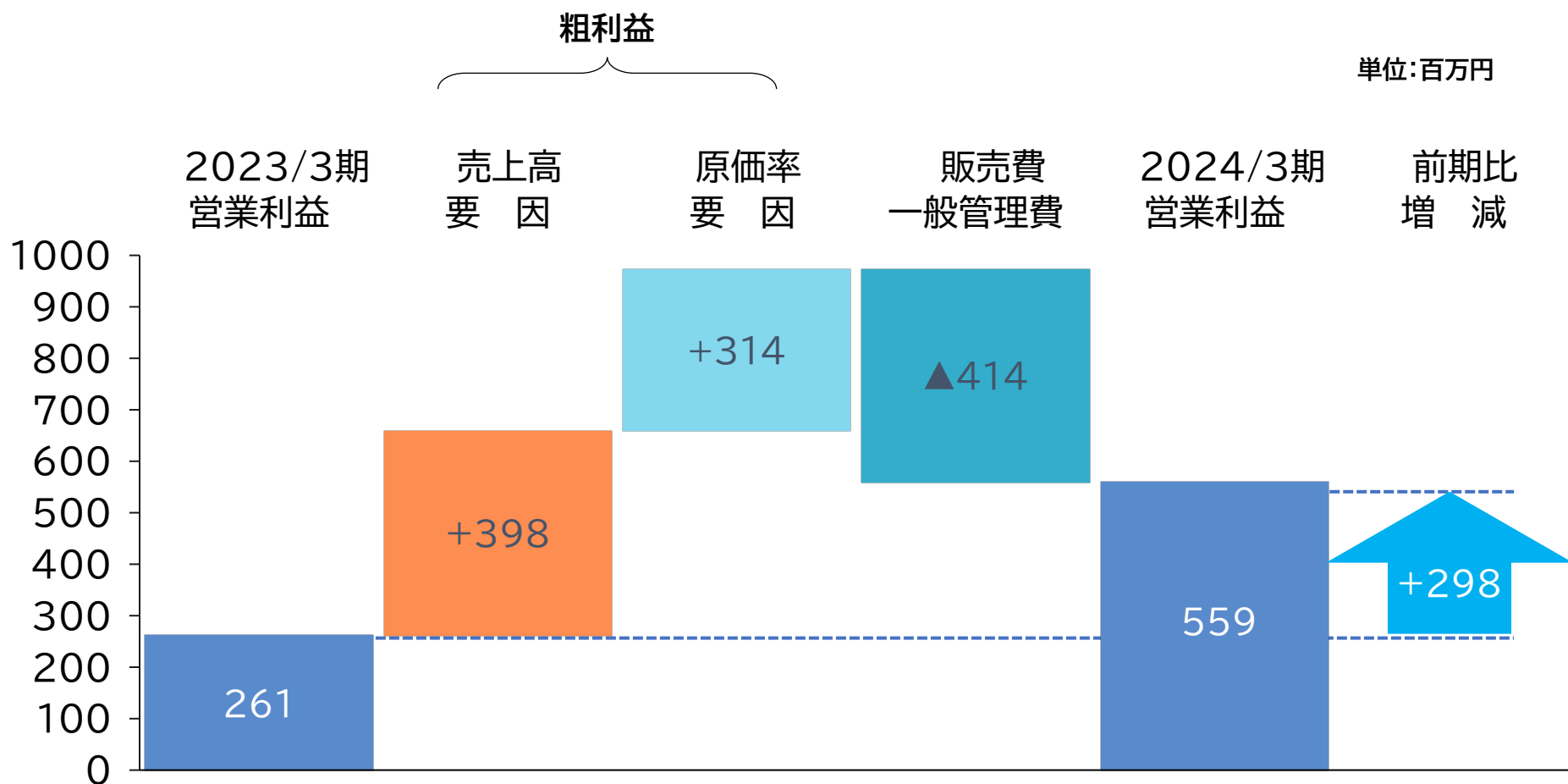
- ボーリング機器について仕入部品調達価格が落ち着きつつあり、受注高は足元回復傾向
- 工事施工は海外ODA案件の大型受注により、受注残高は増加

単位:百万円



※連結調整後数値

- 売上高要因については売上高増加(1,315百万円)の影響で398百万円増加
- 原価率要因については(73.5%→69.7%) 3.8Pt改善し、314百万円増加
- 販売費一般管理費については前期比増加により▲414百万円 内クリステンセン・マイカイ社 343百万円の純増加



単位:百万円

科目	2023/3期末	2024/3期末	前期増減額
資産の部			
流動資産	7,409	8,205	796
固定資産	5,478	5,282	▲196
資産合計	12,887	13,488	600
負債の部			
流動負債	3,634	4,305	671
固定負債	4,556	4,209	▲347
負債合計	8,190	8,514	324
純資産の部			
株主資本合計	4,808	5,050	241
その他の包括利益 累計額合計	▲111	▲77	34
純資産合計	4,697	4,973	276
負債純資産合計	12,887	13,488	600

現金預金:357百万円
 売上債権: 26百万円
 棚卸資産:484百万円

設備投資: 139百万円
 のれん償却: ▲49百万円
 減価償却: ▲255百万円

短期借入金:※1
 347百万円
 (主に棚卸資産増加による
 借入増加)
 仕入債務:131百万円

長期借入金:
 ▲342百万円
 (シンジケートローン返済
 等)

配当金支払:
 ▲67百万円
 当期純利益:※2
 299百万円

※1 1年内返済予定の長期借入金含む ※2 親会社株主に帰属する当期純利益

単位:百万円

科目	2023/3期	2024/3期	前期増減額
営業CF	▲610	473	1,083
投資CF	▲1,690	▲37	1,653
財務CF	2,382	▲82	▲2,465
現金等期首残高	1,223	1,304	80
現金等期末残高	1,304	1,658	353

当期純利益:※465百万円
 減価償却費:255百万円
 仕入債務の増加額:129百万円
 のれん償却:49百万円
 棚卸資産の増加額:▲559百万円

2023/3期は伊勢原工場関連
▲1,531百万円あり

投資CFの内訳

項目	金額
有形固定資産の取得による支出	▲39
無形固定資産の取得による支出	▲13
無形固定資産の売却による収入	1
その他	14
投資CF合計	▲37

短期借入金の純増加:360百万円
 長期借入れ収入:100百万円
 長期借入金返済支出:▲455百万円
 配当金支払額:▲66百万円

※税金等調整前当期純利益

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2024年3月期決算概要
- 4. 2025年3月期業績予想**
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
7. 中期経営計画最終2025年度見込

■2025年3月期については安全省力化を目指す機種も引き続き開発

- ▶ ボーリング機器: 鉋研スピリット3S(SAFETY:「安全、安心」、SAVE:「省力化」、SATISFACTION:「顧客満足」)の製品の市場投入を加速させる。
- ▶ 工事施工: リニア中央新幹線、北海道新幹線延伸工事、大型ODA案件(アフリカベナン共和国)

単位: 百万円

	2023/3期	2024/3期		2025/3期	
	実績	実績	前期比	予想	前期比
売上高	8,213	9,529	+16.0%	11,000	+15.4%
営業利益	261	559	+114.0%	700	+25.1%
経常利益	157	477	+204.0%	600	+25.6%
当期純利益※	185	299	+61.3%	370	+23.4%
1株純利益(円)	22.03	35.45	+60.9%	43.74	+23.4%

※当期純利益: 親会社株主に帰属する当期純利益

<ボーリング機器関連>

- 前期増減要因:クリステンセン・マイカイ社とのシナジー効果により売上高・利益増加
- 売上高 :新製品の拡販、海外案件の拡充、個社の技術指導による自動化の掘削機
- 利益 :原価管理の強化、販売費一般管理費の部門別予算管理の実施

単位:百万円

	2023/3期		2024/3期		2025/3期	
	実績	実績	前期比	予想	前期比	
売上高	4,956	6,490	31.0%	7,300	12.5%	
セグメント利益 (営業利益)	44	367	733.9%	421	14.9%	

<工事施工関連>

- 前期増減要因:売上高・利益減少も地下水工事は順調に推移
- 売上高 :当社 大型ODA案件(バナン共和国)、構造工事社 大型アンカー工事案件あり
- 利益 :海外為替動向に留意した収益管理、販売費一般管理費の部門別予算管理の実施

単位:百万円

	2023/3期		2024/3期		2025/3期	
	実績	実績	前期比	予想	前期比	
売上高	3,257	3,038	▲6.7%	3,700	21.8%	
セグメント利益 (営業利益)	214	190	▲11.0%	278	46.0%	

新製品等については驚掴等の市場投入が遅くなった事により2024/3期の実績では5.0億円となり、2025/3期は大幅増加を見込

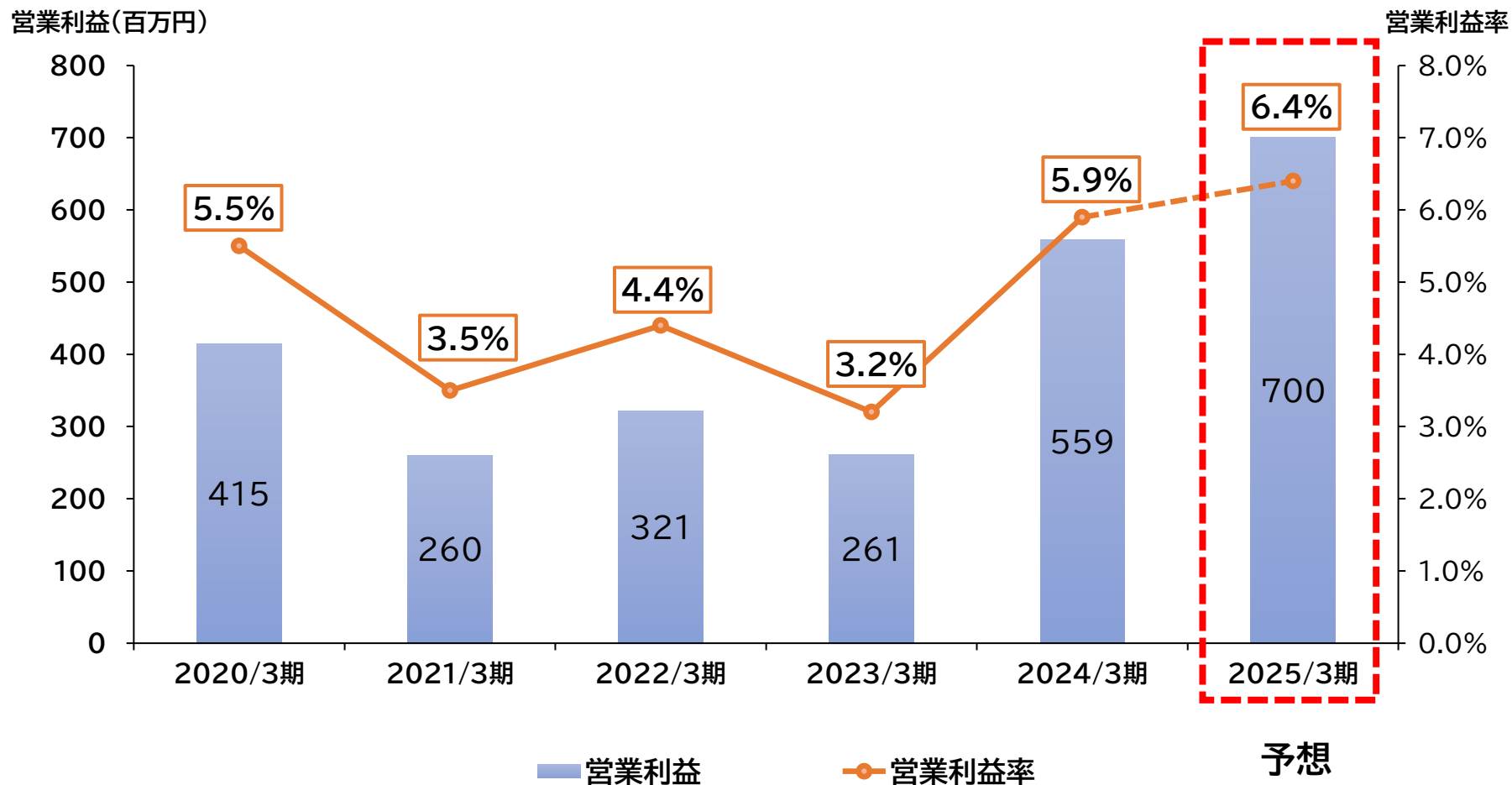
	2024/3期 実績	2025/3期 予想	備考
機械本体 (特機・新製品)等	21.2億円 (5.0)億円	27.2億円 (9.7)億円	標準機 特機、開発機 (驚掴 維新黒船)等
部商品	20.7億円	21.7億円	メンテナンス体制強化により増加
クリステンセン・マイカイ社	23.2億円	24.2億円	2025/3期もウェルサービスが好調
売上高計	64.9億円※	73.0億円※	+8.1億円
営業利益	3.6億円	4.2億円	+0.6億円
営業利益率	5.7%	5.8%	+0.1Pt

※連結調整・億円未満の端数処理を含むため、本資料のみの合計では合計値と一致しません。

	2024/3期 実績	2025/3期 予想	備考
トンネル・BM・コントロールボーリング工事等	18.4億円	15.3億円	トンネルの大型工事減
地下水・温泉工事	5.5億円	6.0億円	温泉工事の増加
海外工事	0.2億円	4.5億円	ベナンODA工事 (2026年3月迄)
構造工事社	6.1億円	11.1億円	大型アンカー工事の増加
売上高計	30.3億円※	37.0億円※	+6.7億円
営業利益	1.9億円	2.7億円	+0.8億円
営業利益率	6.3%	7.5%	+1.2Pt

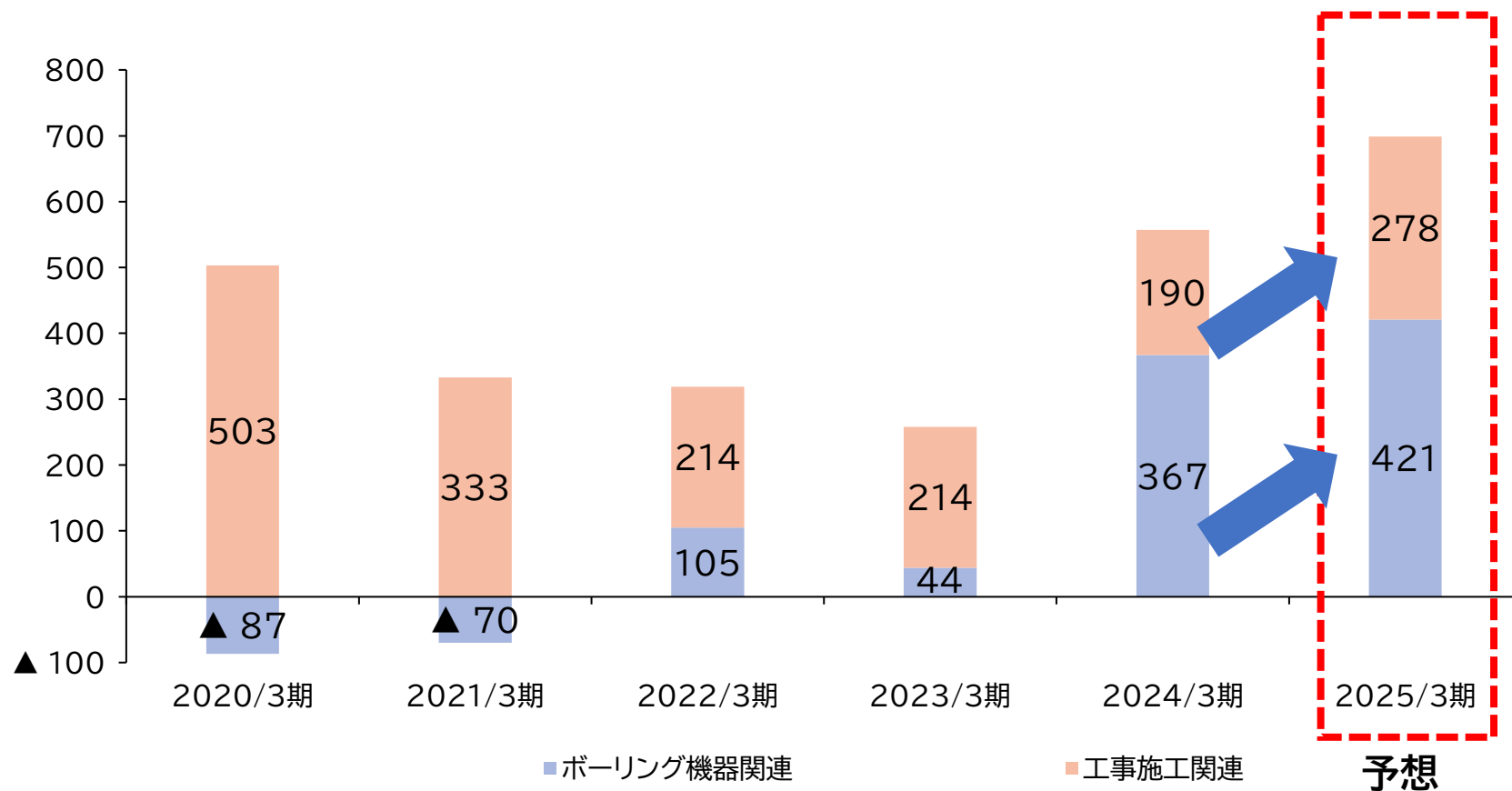
※連結調整・億円未満の端数処理を含むため、本資料のみの合計では合計値と一致しません。

営業利益は、2025/3期については営業利益700百万円、営業利益率6.4%を見込



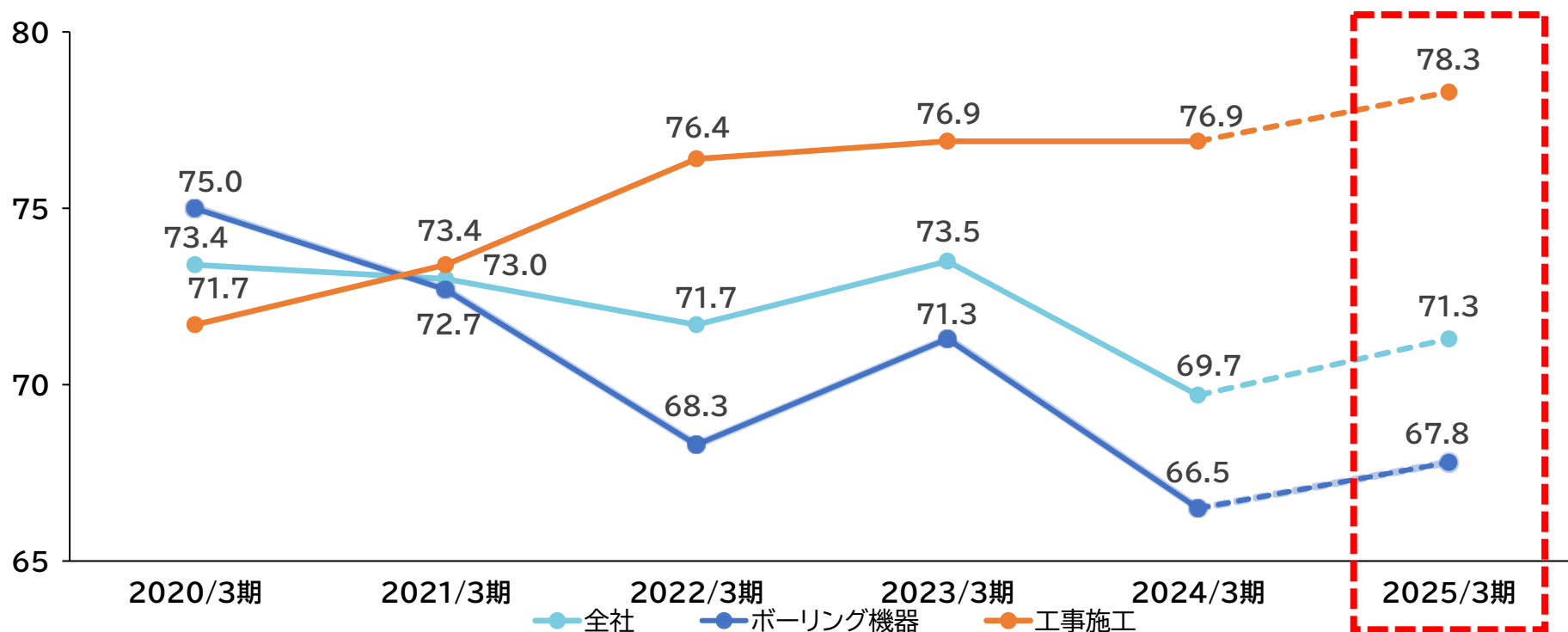
- ボーリング機器関連 421百万円 前期比54百万円増加予想
- 工事施工関連 278百万円、前期比 87百万円増加予想

セグメント利益(百万円)



- ボーリング機器関連の原価率は67.8%(売上高は12.5%増加を見込み、原価率は前期比1.3Pt増加予想)
 - 2024年3月期は、大型海外輸出案件等の円安効果で原価低減の特殊要因あり
- 工事施工関連の原価率は78.3%(売上高は21.8%増加を見込み、原価率は前期比1.4Pt増加予想)
 - 大型アンカー工事等の工事進展により原価率は高止まりするが、低減努力を行う

原価率(%)



注)2025/3期予想は連結調整後

- 2025/3期(予想)は大型ODA案件もあり海外売上高合計で433百万円増加予想
 - ボーリング機器関連:中国案件もあり前期比11百万円増加予想
 - 工事施工関連:アフリカバナン共和国大型ODA案件もあり前期比422百万円増加予想

単位:百万円

	2023/3期 実績	2024/3期		2025/3期	
		実績	前期比	予想	前期比
海外ボーリング 機 器 関 連	252	500	98.5%	+11 511	2.2%
ボーリング機器 関連売上高比率 ※	5.1%	7.7%	/	7.0%	/
海外工事施工 関 連	0	27	—	+422 450	16.7倍
工事施工関連 売上高比率※	0.0%	0.9%	/	12.2%	/

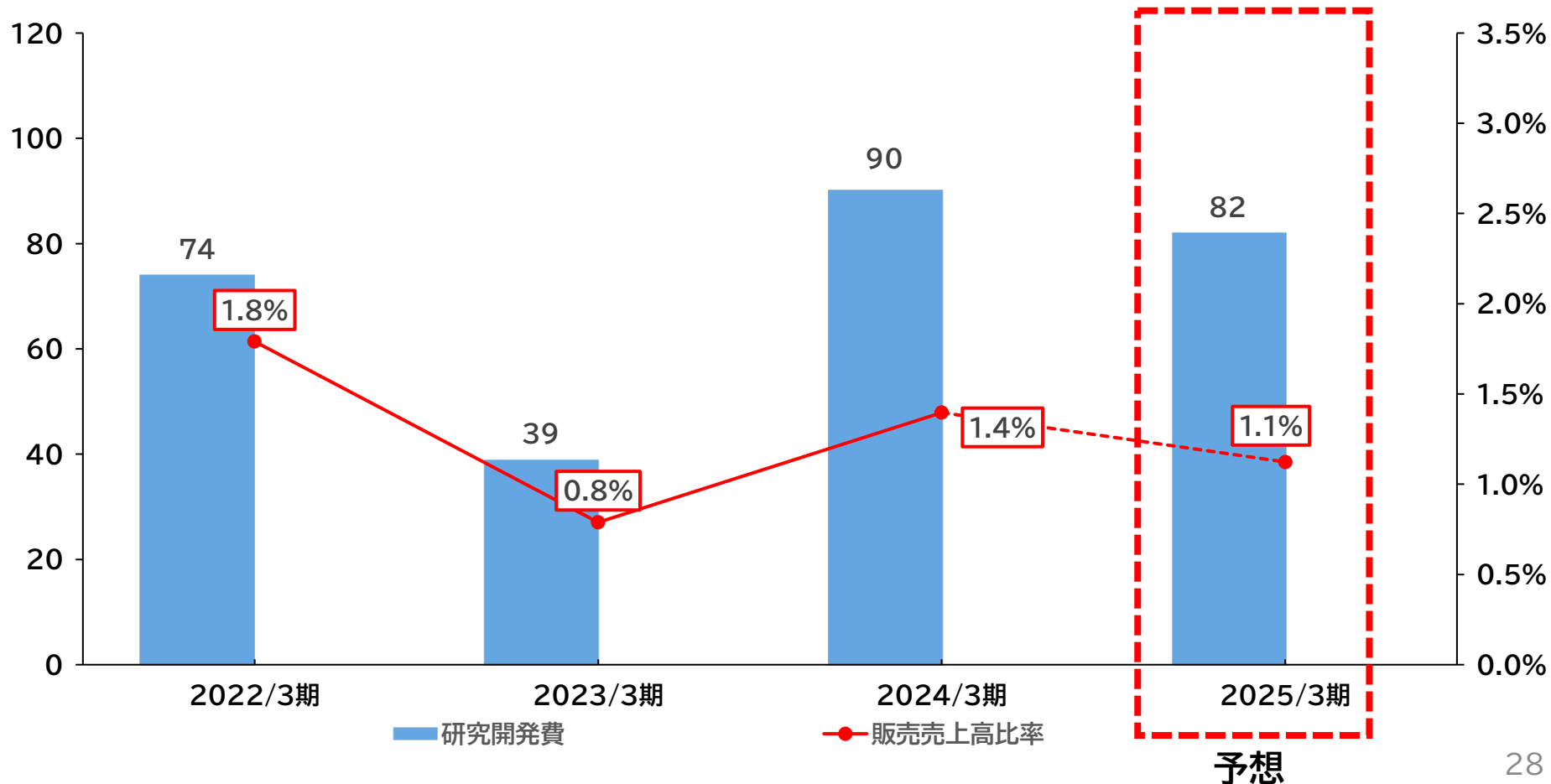
※各セグメント売上高に対する海外売上高の比率

■ 新機種開発は落ち着くも増産に伴う追加開発を見込む

2025/3期も引き続き新機種開発に注力

研究開発費(百万円)

販売売上高比率



株主への利益還元と健全な財務基盤の確立、成長投資のバランスから配当性向30%程度とする方針に基づき、2025/3期における配当1株当たりを12円を予想

	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 予想
1株当たり配当金	10.00円	8.00円	12.00円	12.00円
1株純利益	34.47円	22.03円	35.45円	43.74円
配当性向	29.0%	36.3%	33.8%	27.4%

当社グループではROEを重要指標として位置付けて、2025/3期予想を7.3%にしております。

	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 予想
ROE (%)	6.4%	4.0%	6.2%	7.3%

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2024年3月期決算概要
4. 2025年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
7. 中期経営計画最終2025年度見込

持続的PBR1倍以上に向けて

- 当社グループにおいては、持続的PBR1倍以上に向けての取り組みは重要な経営課題と認識しており、ROE8.0%達成をKPIの重要指標として運営します。収益力強化と総資産の圧縮とのバランスも留意のうえ施策強化としてROEの向上を進めるとともに、以下の重点施策により将来の期待を高めPERの維持向上に努め、持続的PBR1倍以上を目指します。

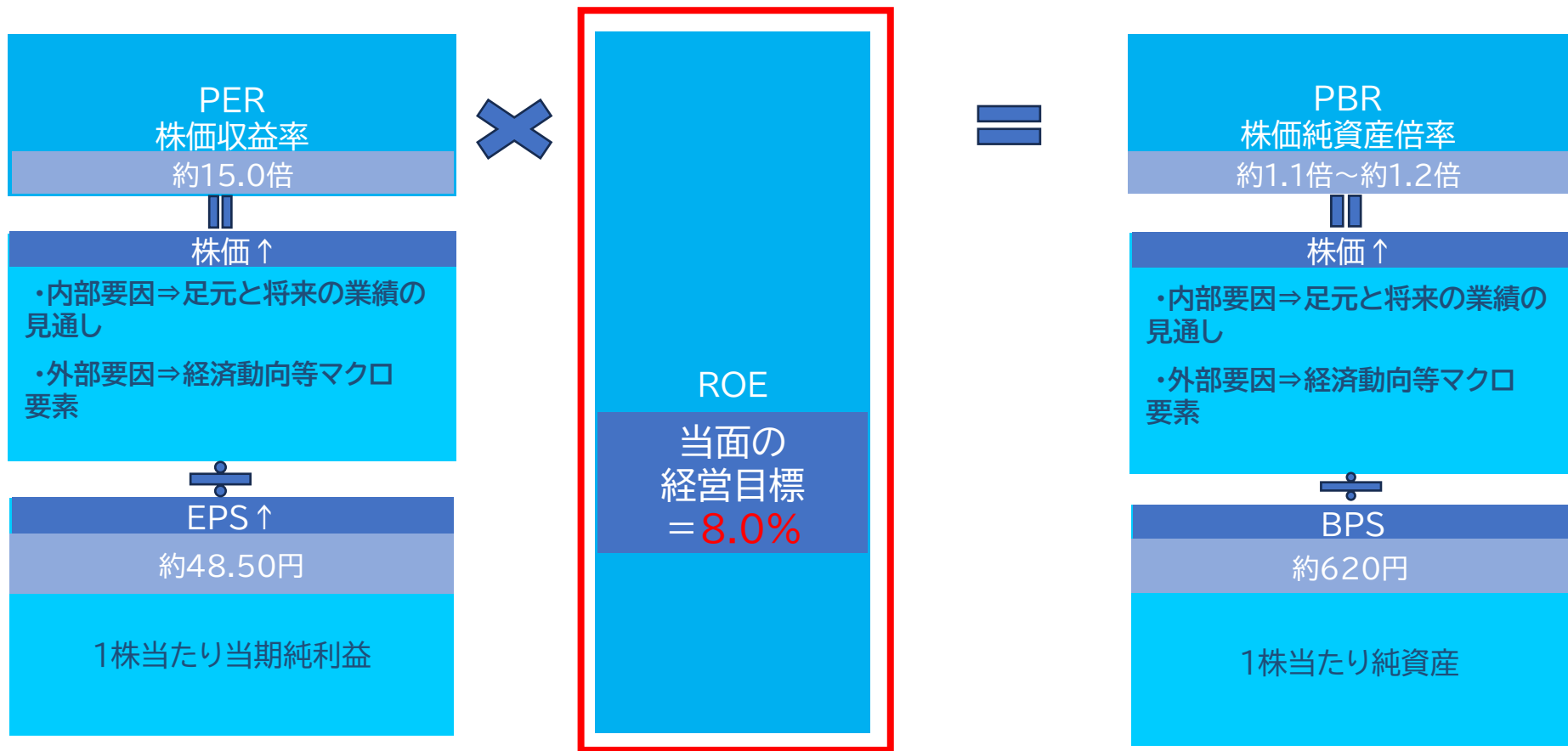
< ONE & ONLYを活かした3つの重点施策 = 2年~3年タームの受注予定案件を極力前倒し >

1. 鉦研3S(SAFETY、SAVE、SATISFACTION)商品(維新黒船、鷲掴、個社オーダー掘削機等)の拡販
2. 当社独自の工法(ビックマン工事等)の拡大
3. 地下水事業の多様な大口案件の獲得とメンテナンス強化(ホテル開発や倉庫事業等)

経営目標としてROE8.0%達成を目指し、以下が個別数値目標となります。



- 当面の間、ONE & ONLYを活かした3つの重点施策により、市場の評価を高め、PER15倍以上を目指し、早期にROEの8.0%達成によりPBR1倍以上を目指します。



- なお、2025年度以降の中長期経営計画がまとまり次第、「資本コストや株価を意識した対応」について開示予定です。

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2024年3月期決算概要
4. 2025年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
7. 中期経営計画最終2025年度見込

7つのKeyWordを基に戦略を遂行し定量面の計画を達成

- A** : Action (行 動)
- C** : Cost Reduction (コスト削減)
- T** : Topical Production (話題性のある製品・部商品の開発)
- I** : Initiative Marketing (創造性のある営業活動)
- O** : Organization Reactivation (組織の再活性化)
- N** : New Managing Strength (新しい経営体質)
- S** : SDGs (持続可能な開発目標の達成)

ACTIONS 2025の取り組み

ACTIONS

Action(行 動)

成果と今後の計画

構造工事社、クリステンセン・マイカイ社とのシナジー効果
 本社管理部門一元化
 各部門へのKPIを導入し、目標達成意識の向上

営業本部: 個社別PDCAによる組織として営業力強化
 製造本部: 在庫増加抑制、苦情発生比率削減 等

ACTIONS

Cost Reduction(コスト削減)

成果と今後の計画

ERP(2026年リリース予定)・BOMを見据えた投資抑制

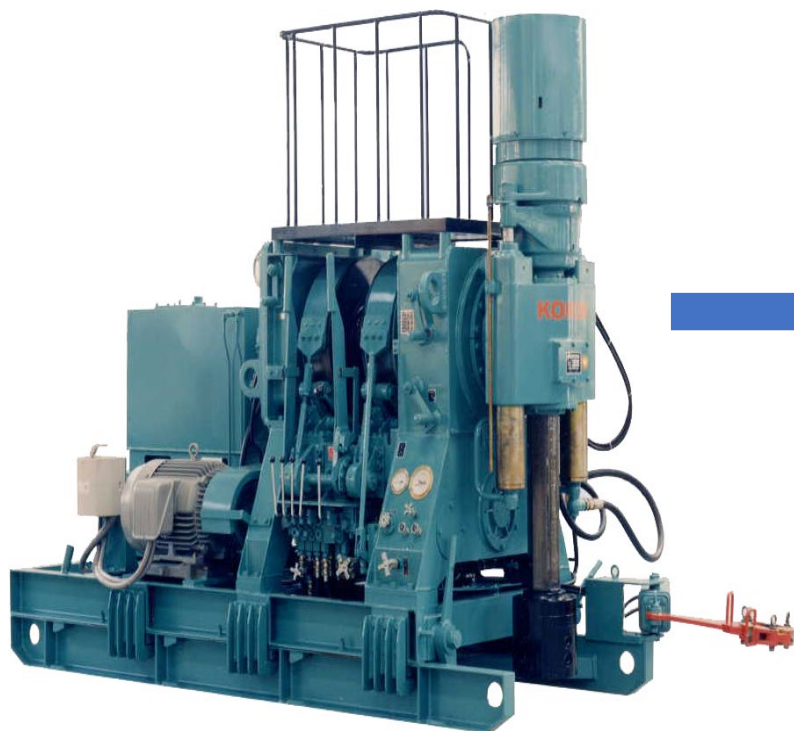
人事制度(賃金制度改定・DC導入)見直し

ACTIONS 2025の取り組み

<p>ACTIONS</p>	<p>Topical Production (話題性のある製品・部商品の開発)</p>
<p>成果と今後の計画</p>	<p>鷲掴等の開発完了(一部製品販売開始) 2025/3期は販売本格化</p> <p>今後は海外業者との提携を行い、海外市場も広げる 維新黒船</p>
<p>ACTIONS</p>	<p>Initiative Marketing (創造性のある営業活動)</p>
<p>成果と今後の計画</p>	<p>ハンドリング装置の拡販に向けてブランドストーリー、 鉾研スピリット3S(SAFETY、SAVE、SATISFACTION)</p> <p>メンテナンス体制確立により顧客の信頼度醸成とともに メンテナンス収益向上、営業事務の効率化を狙う</p>

- 個社の技術指導による自動化の掘削機(ABM-10)
- リモコンによる遠隔操作でボーリングロッドの着脱から削孔までが可能のため、オペレーターの負担を軽減し安全を守りつつ、施工時間の短縮を実現しました。

➤ 従前



➤ 現在



ACTIONS 5か年計画の売り上げの中核となる、製品企画委員会プロデュースによる新製品が2023年から順次ロールアウトしています。

安全、安心
Safety
 省力化
Save
 顧客満足
Satisfaction

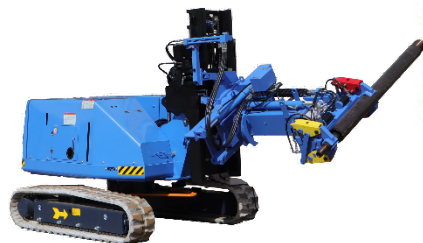
鉦研スピリット

3S

鉦研スピリット3Sとは、

- ・安全、安心=SAFETY
- ・省力化=SAVE
- ・顧客満足=SATISFACTION

という鉦研製品の開発テーマです。



- ① RHS-1 鷲掴壹号
 - ② RHS-2 鷲掴貳号
 - ③ KMD-50C
- 維新黒船(FRASTE社)

ACTIONS 2025の取り組み

ACTIONS

Organization Reactivation

(組織の再活性化)

New Managing Strength

(新しい経営体質)

- 非財務数値目標として以下を掲げ実行しております。

【ご参考】

区分	指標	目標 (2025年度)	2022年度 実績	2023年度 実績
1.人材育成の推進	資格手当取得者	100名	83名	90名
	Eラーニング受講件数	10,000件	505件	11,524件
2.多様な人材登用	女性管理職比率	10.0%	7.5%	8.2%
	中途採用者の管理職比率	35.0%	36.2%	35.1%
3.働きやすい風土	1人あたり残業(非管理職)	9.0H/月	9.4H/月	6.5H/月

ACTIONS 2025の取り組み

ACTIONS	SDGs (持続可能な開発目標の達成)
成果と今後の計画	伊勢原工場をRE100にて稼働開始 グループ全体での再生可能エネルギー導入を進めていく

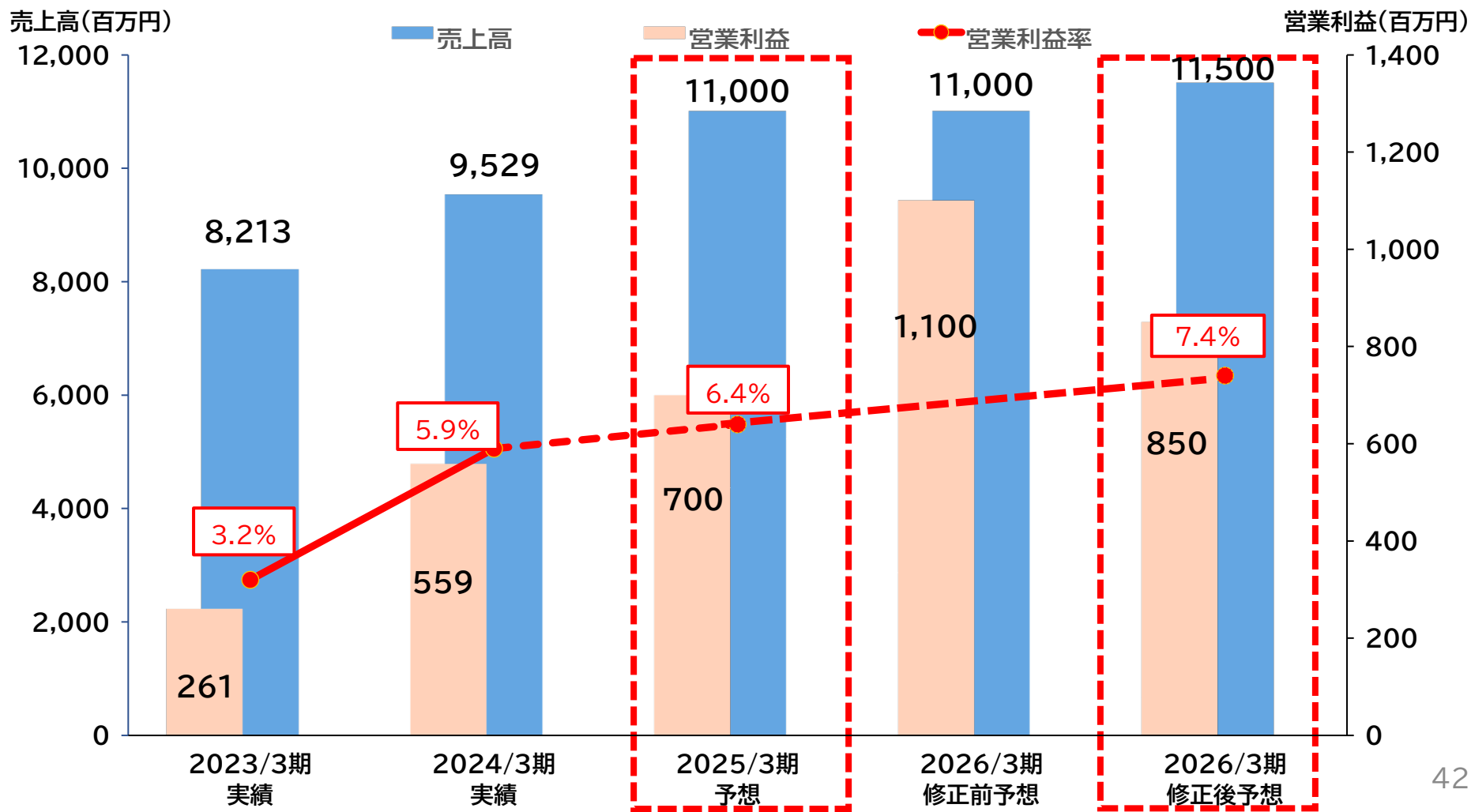


持続可能な世界の実現のための17のゴール、169のターゲットから当社の事業活動が貢献できる課題を抽出し、取り組んでまいります。

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2024年3月期決算概要
4. 2025年3月期業績予想
5. 持続的PBR1倍以上に向けて
6. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
7. 中期経営計画最終2025年度見込

中期経営計画目標(修正)

- 原価高騰等による原価の急な販売価格転嫁は現状困難であり2026/3期は前回予想より売上高11,500百万円(+500百万円)、営業利益は850百万円(▲250百万円)へ下方修正
- 営業利益率は5.9%から7.4%へ上昇
- なお、2025年度以降の中長期経営計画がまとまり次第、2026/3期以降の計画について開示予定です。



社 是

ONE & ONLY の技術構築のために前進

経営理念

顧客の安心を以て信頼を得、
全社員とその家族の幸福を追求し、
地球と社会に限りなく貢献する会社となる。

(PEOPLE) (PLANET) (PEACE) (PROSPERITY)
(PARTNERSHIP)

当社のパーパス(企業の存在意義)

「地下を活かし」

「地下と生きる」

「持続可能な**こうけん**を」

「**地球に**」



将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。
無断転載を禁ずる。